

未経験から新規就農に挑戦 只見町で始まる第二の人生



—はじめに、只見町を知ったきっかけを教えてください。

美：きっかけは新農業人フェア※1です。もともとは私達ではなく農業高校に通っていた息子に、これからの進路を考えるうえで、新農業人フェアというイベントが東京であるから、一緒に行ってほしいと頼まれて親子で参加しました。

私達もせっかく参加したのでいろいろなブースを覗いていたのですが、その時に、老後は半自給自足的な生活をしたいと考えていた事を思い出し、そんなことをしたいなど。全然経験も無いのにね（笑）

勝：それを聞いて、まあ悪くないかもねって。
そこからは自分達も話を聞いてみよう、北海道など興味があるブースを回っている時に、只見町の職員の方に声をかけられたんです。

最初はそれほど興味を持ったわけではなかったのですが、一生懸命さが伝わり話を聞いてみようかなと座ってみたら、細かいことも説明してもらえて、特に補助がすごかった！若者だけでなく自分達のような第二の人生で就農を目指す層へも手厚い補助があってすごいなと思い、只見町への移住を考え始めました。

※1：日本全国から参加する自治体や農業法人と直接話せる（株）農協観光主催のイベント。

一運命的な出会だったんですね！

勝：その後、私達は農業の経験がまったく無いので、本当に自分達にできるのかを試すため、南会津ふるさとワークステイ事業(※2)を利用しました。

美：その時は只見町ではなく隣の南会津町の農家さんにお世話になったのですが、起きる時間から何から研修先の農家さんと同じような生活をさせてもらいました。2日間を2回、もう少し長く来たかったけれど、私達も仕事の関係でなかなか...

※2 農林業や農山村に関心があり、農作業や農村への滞在を希望されている方へ「現地での農作業体験」、「オンラインでの懇談、ほ場見学」の2種類の内容を設け、新規就農者の確保及び都市居住者等と農林業者との交流を促進することを目的とした事業。

一ワークステイを経て、移住を決意したのですか？

勝：ワークステイの経験によって、就農を前提とした移住について、気持ちの確認ができました。

あとは地域的なものをもっと知らないといけないと思い、GWを利用して町を訪れたり、町主催の冬の移住体験ツアーにも参加しました。



美：冬の移住体験ツアーではたまたま雪が少ない年で、豪雪地帯の体験としては物足りない感じでしたけどね（笑）

ツアー後、そのまま奥会津チャレンジライフ(※3)という事業を利用して延泊し、ツアー含め4泊ほど滞在したんですよ。

※3 当時行われていた、仕事や地域交流を通して奥会津への移住を推進するプログラム（現在は行っておりません）

奥会津チャレンジライフでは、除雪や米焼酎の仕込みのお手伝い、宿泊施設の清掃を行いながら、お試し移住体験施設で生活していました。

ワークステイや移住体験ツアーなどに参加させてもらって、とても良いところだと感じたので移住を決意しました。

―移住の前段階の準備をしっかりと進められていたんですね。

勝：そうですね。その頃にはほぼ気持ちは固まっていました。

前職が海上自衛隊だったので、54歳の定年を待って移住しようと考えていたのですが、定年の年齢が引き上げられたりと思うようにいかないこともあって、いろいろと準備をしていたことが総崩れになってしまうので定年を待たず中途退職を選び移住しました。

美：私も同じく海上自衛隊で非常勤職員をしていたのですが、雪のことなど実際に住んで生活環境を確かめたかったのが、夫より2年先に只見町に移住したんです。その2年間は、地域おこし協力隊として、県立只見高校の振興対策のために活動していました。

―その後、勝彦さんも合流して、南郷トマトの研修が始まったんですね。

美：そうですね。4月1日から研修が始まりました。

今年度から研修の制度が変わって、今までは研修期間中、只見町から研修費を助成される形だったのですが、今年度から研修機関のJAよつばの臨時職員となり、南郷トマト生産組合の定めた親農家で研修させてもらっています。研修期間中は給与が支払われ、社会保険も加入でき、今までより待遇がよくなっているかもしれません。



―研修ではどのようなことをされているんですか？

美：一番最初の作業は、ハウスのビニールをおろして風で飛ばされないように紐で締めて、さらにネットを張ったりなど、ハウスの形にしていく作業です。この作業は風の強い時はできないから、農業は天候に左右されると実感しました。それから定植作業などを行い、今は芽かき、誘引や摘果作業をしています。

勝：1日のスケジュールとしては、基本は8時から17時勤務で、10時と15時に休憩が入り、12時過ぎに昼食のために自分たちは一度帰宅します。休憩時間以外は作業をしています。土日は休みという形ですが、状況によっては土日も続けて作業をすることもあります。

—今研修が始まって3か月経つと思いますが、どう感じていますか？

勝・美：二人とも農業の知識、経験が無いので、習得しなければならない事がとても多くあることを実感しました。

美：今のところ想像していたより体の疲れは感じませんが、今まであまり使わなかった部分が筋肉痛になったり、低い姿勢での作業時間が長い場合は腰が痛くなったりします。

勝：元の仕事が海上自衛隊だったので、肉体的にきつと感じることはあまりありませんでした。
ただ身体を動かす仕事をしていなかった人だとやはりきついんじゃないかなと思います。自分達くらいの年齢になってからだときつい人の方が多いかもしれないです。

美：そうですね。私も移住前11年ほど、ずっと倉庫作業で、事務もやっていたけど半分は肉体労働をしていたので、その時の経験がここで活かしている気がします。



—お二人とも身体のベースがしっかりできていたんですね！

息子さんも只見町に移住されてきたとお伺いしたのですが...

美：次男と一緒に只見町に移住してきました。今は只見働き隊事業協同組合(※4)で働いています。

勝：いずれは家族でトマト農家をやるかもしれませんが、最初は自分達だけで、そのうち子供も一緒にやりたいと思った時でいいのかなと。

美：もし考えが変わって、自分で独立してやりたいのであれば独立就農したり、何十年後かに私たちがリタイアしたら引き継ぐことはあるかもしれませんが、今のところはそれぞれの仕事を全うしています。

※4「特定地域づくり事業協同組合制度」を活用し、令和4年4月に福島県の認可を経て設立。通年での雇用が難しい業種同士を組み合わせ、年間を通じた仕事を創出している。

一では、実際に住んでみて困ったことなどあれば教えていただきたいです。

美・一番危惧していた雪に関しては、先に来ていた2年間は町営住宅に住んでいた
ので除雪車が家の前まで来てくれていたし、徒歩範囲に生活圏が集中していた
のであまり車に乗らなくても生活できたこともあり、そこまで困ったことは無
かったです。

勝：今年は空き家だった一軒家を購入し引っ越したので、慣れていないこともあつ
て、雪が少ない年だったといえど、大雪の日は大変でした。
除雪機も譲ってもらったので、少なめの雪でしたが練習できました。

一暮らししてみて良かったこともぜひ教えてください。

美：気持ち的に余裕が出てきました。いままでいろいろなことにピリピリしていた
んですけど、そういったことがなくなったと思います。
働き方だったり環境の変化だったり、こうやって自然のあるところにいると人
間変わってくるんですかね。

勝：ご近所さんに恵まれたのもあるかもしれないです。近所の方だけでなく集落全
体の人達が気にかけて声をかけてくれます。

自分達も草かりや堀払いなどの集落活動は、参加できるときは家族全員で参加
し、地域の方々と交流したいと思っています。

今住んでいる家に、庭と畑があり、休日に畑作業や趣味の園芸をしているんで
すが、近所の方が解らないことや私たちでは気が付かなかったことをアドバイ
スしてくれます。あとねトラクターで、畑を耕してくれました！

勝：手押しの管理機で耕していたら、そんなんじゃ終わんねえよって言って（笑）
近所のおじさんがトラクターを持ってきてふかふかにしてくれました！



—それは嬉しいですね！みなさんが積極的に活動に参加しているから集落に馴染むのも早いのではないかなと思います！

では最後に移住を考えている方へ一言お願いします。

勝：何より足を運んでみないといろいろなことが見えてこないと思います。気が付かないまま移住して、違ったなっていうのも悲しいので。

美：当時担当してくださった移住コーディネーターの方が親身になって相談に乗っていただきました。

同じく移住してきた方で、プラスのこともマイナスのこともすべて話してくれました。厳しく話してくれたおかげで私たちも緩い考えじゃなく覚悟を持って移住できました。

なので、気になったら足を運んで、いろいろなところを見て話を聞くということが一番じゃないかなと思います。



2024.6.28